



芽吹きの子節ですね。

年がかわって4カ月。

既に月も半ば過ぎました。

日に日に強くなる日差しを浴びて、山並みは雪を残しつつも低地は鮮やかに萌えています。長岡市街を彩った桜の花びらも若葉に次を譲ったようで、たった数週間でも季節の移ろいを教えてくれています。

筆者にとって長岡の春といえば、悠久山の桜。

子どもの頃からの定番です。

もちろん、子どもの頃は花なんてそっちのけで屋台に並ぶ食べ物やおもちゃに目を奪われていたものです（皆さんもそうですよね）。

ひねり無しの“花より団子”でした。

悠久山の起りや歴史をご存知ですか。

「お山」や「蒼紫の森」と呼ばれ市民に親しまれる悠久山の歴史は、長岡藩三代目君主 牧野忠辰（まきのただとき、1665-1722年）が佐渡の杉や松を植樹させ庭園としたことから始まります。忠辰は「十分盃」でも知られる人物ですね。

長岡藩の手厚い保護を受けていた悠久山ですが、明治の初めに藩が廃止されると管理が行き届かなくなり荒廃してしまいます。

この悠久山を整備し今の形に創り上げたのが「令終会」です。

大正初期、「長岡の次代に役立つものを残そう」と集った 60 歳以上の市民有志で結成されました。

メンバーには、東山油田から出発し宝田石油（現・JX エネルギー）を創設した山田又七や北越製紙（現・北越紀州製紙）を創設した田村文四郎などもいました。

市民や長岡出身者に資金を募り、悠久山公園内の遊歩道整備や泉翠池の掘削など、今日の悠久山公園の基礎を築きました。

この「令終会」という名称は、人生の終わりを社会のために働き美しく終わろうという意味だそうです。

すごい。筆者も「すごい」で終わらせてはいけないと自分を見つめます。

桜をはじめツツジ、花菖蒲、紅葉、雪景色と四季折々の美しさを見せてくれる悠久山。

今年もたくさんの笑顔が集います。市民の憩いの場所を残してくださった先人たちに感謝して、入口に立ったら一礼せねば。

「そんなこと気にするな」と先人たちは言うのでしょうか。

平成 28 年度 悠久山桜まつり

<https://www.city.nagaoka.niigata.jp/kankou/event/sakura.html>

ながおか“桜咲く”マップ

<https://www.city.nagaoka.niigata.jp/kankou/sakura.html>

ながおか観光 NAVI 「イベントカレンダー4月」

<https://www.nagaoka-navi.or.jp/event/?y=2016&m=4>